第40番 観自在寺

- ☎0895-72-0416
- ●宿坊/あり(素泊りのみ、要予約)



- ●宿坊/なし



沿線の見どころ



津島やすらぎの里 熱田温泉

良質な湯に浸かれる「熱田温 泉」。檜風呂を備えた「白鷺の 湯」と岩風呂を備えた「菖蒲の 湯」、露天風呂やサウナ、寝湯、 ジェットバスなどが揃っており、 家族風呂もある。温水を利用し たプール、温泉を利用したジャ グジーや歩行浴も併設。玄関 前の足湯は自由に利用できる ので、気軽に疲れを癒やそう。

営 10:00~22:00 (札止21:30)



沿線の見どころ



宇和島城

築城の名手として知られる藤 堂高虎が手がけたとされる、伊 達氏十万石の城下町のシンボ ル。本丸や二之丸がある城山 は国の史跡となっており、寛文 6年(1666)頃に再建された天 守は現存12天守の一つ。その 秀麗な造りから、鶴島城とも呼 ばれている。天守への入場は9 時~17時(10月~3月は16時 まで)。

媛県宇和島市丸ノ内1

:00~18:30(10~3月は~17:00)

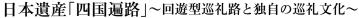
境内の見どころ



仁王門

火災などのため古い建物があ まり残っていないが、威風堂々 とした仁王門は約200年前に 建立された総檜造りの門。天井 にある十二支の方位盤は特に 有名で、元禄2年(1689)の 『寂本四国遍礼記』の中にも記 されている。仁王像は下久家の 大工の作で、額は高野山401 世座主の筆によるものである。



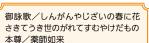




弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全 長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が 1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道 や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風 景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の 聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温 かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡 を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



真言/おん ころころ せんだり まと うぎ そわか

宗派/真言宗大覚寺派 開基/弘法大師







平城山観自在寺

皇室や宇和島藩にゆかりのある寺

歴史・全体像

第51代平城天皇の勅願所として、大同2年 (807)に弘法大師が開いた。本尊の薬師如 来と脇仏の阿弥陀如来、十一面観音は、弘法 大師が一本の霊木から作ったと伝えられてい る。全国各地、皇室から庶民まで、幅広い階層 から信仰を集め、日本に4ヶ所しかない鎮守の 一つでもあった。特に平城天皇、嵯峨天皇は親 しく行幸され、御朱印を下し、一切経と大般若 経を納められたという。寛永15年(1638)に、 京都の空性(くうしょう)法親王が巡拝され、薬 師院の号を受け、その後、宇和島藩主・伊達宗 利の勅願所となった。第1番から最も遠いため 「四国霊場の裏関所」といわれている。

境内

往時は七堂伽藍がそびえ、48坊の末寺を 有する荘厳華麗な寺だった。しかし、火災に よって本堂を全焼してしまったため、昭和39年 (1964)に再建。創建当時の姿に復旧した。

大師堂は平成5年(1993)に改築され、 廻廊には四国八十八ヶ所霊場のお砂が敷 き詰められている。その大師堂の周りを歩く と、四国霊場のお砂巡りができ、大師一代の 尊像が礼拝できる。

弘法大師が平城天皇の病気平癒を願っ て般若心経の祈祷をしたという故事にちな んで建立された心経宝塔や、宝物を収納展 示する宝聚殿八角堂などもある。





第41番 龍光寺

日本遺産

2017年3月作成

